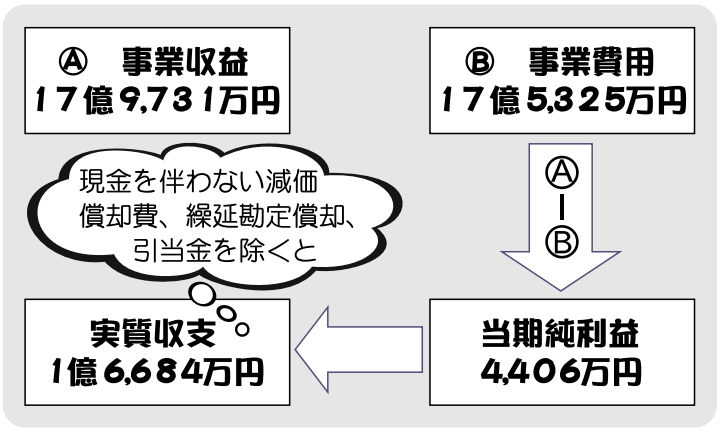


平成24年度 智頭病院決算

病院事業は皆さまの入院・外来などの診療費を主な収入として経営が成り立っています。

◇経営状況の概要(税抜)

事業収益 17億9,731万円
事業費用 17億5,325万円
4,406万円の当期純利益
(前年度1,604万円)
実質収支は1億6,684万円の黒字になりました。



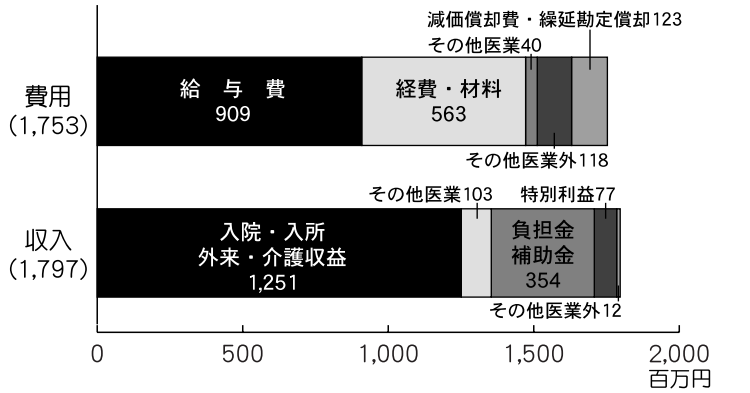
収入の状況

入院患者は32,192人、入院収益全体では6億4,355万円で前年度より5,996万円減少、老人保健施設収益は1億9,300万円となりました。外来患者は52,099人で前年度より1,397人の減少、外来収益は3億3,463万円で前年度より405万円減少しました。
医業外収益は3億6,609万円で補助金・負担金交付金等が前年度より8,060万円増加しました。

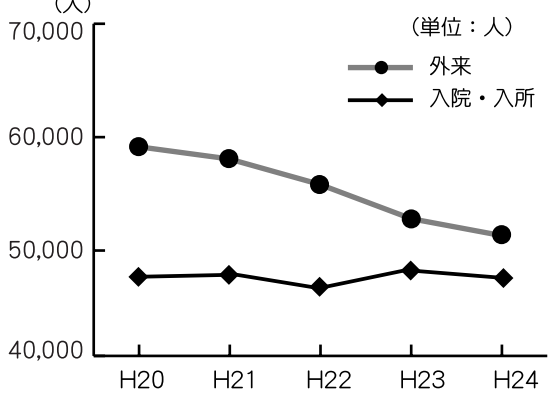
費用の状況

医業費用は16億2,213万円で、給与費、材料費等の減により、前年度より1,482万円減少しました。
医業外費用は1億3,112万円で、電子カルテ導入に伴う雑損失(控除対象外消費税)の増などにより、前年度より240万円増加しました。

収益的収支



延患者数推移



資本的収入・費用の状況

特別調整交付金及び鳥取県地域医療再生基金事業補助金を活用し、オーダリングシステムの更新並びに電子カルテを整備しました。

一般会計からの出資金は1億5,028万円、企業債償還金は2億5,350万円です。

電子カルテシステムを導入、医療サービスの向上、より安全な医療を行うよう努めています。

長期入院患者の在宅復帰支援及び在宅介護者の支援をすすめるための短期入所の受け入れ、訪問診察・訪問看護、特に通所リハについては祝日の運営・定員の増など在宅介護の支援も積極的に実施しました。厳しい経営状況の下ではありませんが、地域の皆さまに信頼され「安心・安全の医療」を提供する病院として、医師・看護師の確保に努めることも、地域住民のニーズに対応しながら、智頭病院改革プランに沿った運営に努めてまいります。



もの忘れ外来について

「もの忘れ外来」とは

年を取ると記憶力が低下し、人や物の名前が出てこないとか、書類の置いた場所がわからなくなったり探すというようなことは誰もが経験することです。これは年齢相応のことが多いのですが、もの忘れは認知症の症状を代表するものですので、認知症の外来を「もの忘れ外来」と称しています。

認知症というのは「いったん獲得した知的機能が脳の病変により後天的に低下し社会生活に支障をきたすようになった状態」です。「もの忘れ外来」は、この認知症を医学的にみていき、それに適切に対処して行くという事です。



認知症の患者数

わが国の平均寿命(昨年度)は女86・41、男79・94歳で、80歳まで生きるのが普通になりました。単に寿命が延びただけでなく、認知症の発生頻度も増えていることがわかっていきます。

昨年度時点での認知症患者は65歳以上の15%、全国462万人で、さらに認知症予備群の約400万人を合わせると、実に65歳以上の4人に1人が認知症またはその予備群という事です。認知症患者の数は加齢と共に増加し85歳以上の人では40%を超えています。

認知症患者増加の原因は、高齢者の増加、食生活の欧米化、生活環境の変化、孤独・孤立した人の増加、ストレスの増加、など様々な要因がありますが、認知症は今の社会が取り組まなければならぬ大きな問題です。



食生活の欧米化

認知症の原因

認知症の原因は大きく分けると

- (1) アルツハイマー病 (アルツハイマー型認知症)
- (2) 血管性認知症
- (3) レビー小体型認知症
- (4) 前頭側頭型認知症
- (5) その他

です。30年前、わが国では血管性認知症が約50%を占めていましたが、現在はアルツハイマー病が全体の50%を超えています。アルツハイマー病では脳に異常なたんぱくがたまり神経細胞が壊れていきます。認知症の症状は、中核症状と周辺症状に分けられます。

中核症状:

記憶障害、周囲の状況、時、場所、人の判断が正しくできない、ものごとを適切に判断したり手順通り行ったりすることができない、意欲が低下し無為に過ごす、などです。

周辺症状:

徘徊、幻覚、妄想、不安、うつ、興奮、暴言、などです。

アルツハイマー病への対策

アルツハイマー病に対しての薬が開発されていますので、服用することである程度の効果があります。脳活性化にはげみなから薬を併用していくとよいでしょう。

血管性認知症への対策

脳血管障害の予防が大切です。血圧のコントロールのための服薬や食生活の改善、血液を固まりにくくする薬などで脳梗塞を予防します。また喫煙やアルコールの飲み過ぎは、身体の様々な病気と共に認知症の発症も増加させます。

認知症は年だから治らない、仕方がないとの考え方がありますが、生活環境の影響が強く、まずは予防していくことが重要です。高齢になると、身体の機能が低下すると知的機能も衰えますので、脳と同様に身体機能の維持に努めることも重要なことです。



神経内科医師 北川 達也